

政策13 生涯学習の推進

構成する施策

- 43 市民の自主的な生涯学習活動の促進 45 生涯学習・スポーツ情報システムの構築
44 多様な生涯学習機会の充実 46 生涯学習・スポーツ施設の整備

目標

民間事業者や他の機関と役割分担しながら、市民が地域において生涯学習活動に自主的に取り組むことのできる環境や学びたいときに学ぶことのできる仕組みを確立していきます。

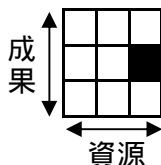
基本方針

市民が世代を越えて幅広く交流しながら、地域において継続的に生涯学習活動やスポーツ活動・健康づくりを行える環境を整えます。
社会構造の変化に伴う新たな社会的・生活的課題の解決に向け、市民ニーズの把握に努めながら、生涯学習機会の充実を図ります。

考え方

政策の方向性

箕面市市民満足度アンケートにおいては、重要度は低く、満足度が極めて高いため、市民ニーズ度は極めて低くなっている。これは、市民が参加しやすいさまざまな生涯学習活動に親しめるメニューを用意した結果、高い評価を得たものと考えられる。今後も、企画運営を市民との協働により推進していくとともに、大学との連携を推進するなど、よりソフトの充実を図り、成果を「維持向上」していくこととし、資源は多様な施策実施手法を検討することにより、「抑制」するものとする。



成果	維持向上
資源	抑制

社会状況の変化

・今後、団塊の世代等の中高齢者の生涯学習に関する関心はますます高くなる。一方で、これまで水準の高い施設を順次整備した結果、その維持管理経費が増大している。
・公の施設の指定管理者制度への移行等により、民間のノウハウを利用したサービスを展開することで、施設全体に係る経費節減や顧客志向に沿った施設運営を行うことが求められる。

これまでの取り組み

・3大学(大阪外国語大学、大阪青山大学・大阪青山短期大学、千里金蘭大学)と包括協定を締結し、人的・知的資源を有効活用した。
・施設管理者の適切な維持管理により、施設の整備に関する箕面市市民満足度アンケートでは、高い評価を得た。

課題

- ・大学との包括協定をもとに、人的・知的資源をより有効活用していくための創意工夫が求められる。
- ・施設維持管理については、老朽化による改修等が今後発生するため、計画的な維持補修が必要である。

成果指標名

基準値 → 目標値

指標	生涯学習施設利用者数	700,112 人 → 715,000 人
根拠	市民の生涯学習活動を促進するため、自主的・継続的な生涯学習活動やスポーツ活動を行っている市民の数を測ることが重要であることから、施設の利用者数を指標とする。過去3ヶ年(H15～H17)の平均値をベースに3%増加をめざし、715,000人を目標とする。	
指標	生涯学習施設講座・イベント参加者数	66,443 人 → 69,000 人
根拠	市民ニーズに応じた生涯学習機会の充実をめざすため、講座・イベント参加者数を指標とする。過去3ヶ年(H15～H17)の平均値をベースに5%増加をめざし、69,000人を目標とする。	
指標	生涯学習施設へのホームページアクセス件数	560,148 件 → 626,000 件
根拠	生涯学習・スポーツ情報システムの利便性を図るため、生涯学習・スポーツ情報システムの利用を把握する指標とする。過去3ヶ年(H15～H17)の平均値をベースに10%増加をめざし、626,000件を目標とする。	
指標	生涯学習・スポーツ施設の整備に関する満足度	12.8 % → 16.0 %
根拠	施設利用者に快適に利用してもらうため、計画的な施設管理を進めることとし、箕面市市民満足度アンケートにおける満足度を指標とする。第2期実施計画におけるH18年度目標値を目標とし、16.0%とする。	